

[4] ゴム高騰、その時どうする 指数を使って全体のヘッジ

編集部

ゴム価格が高値を続けています。国際商品には海外相場が指標になっている商品が多いのですが、ゴムだけは異なり、日本の発信する先物価格が世界の指標になっています。

ゴムはシンガポール、マレーシア、ニューヨークなど世界各地で先物取引が行われており、日本では東京工業品取引所と大阪商品取引所に上場されています。日本は出来高が多いうえ、中国、米国に次いで世界第3位の輸入国であること、産地に近いこと、長い歴史があることなどが「世界の指標」になっている理由です。

日本ではユーザー、商社が設立

日本ではゴムは輸入商社、大手タイヤメーカーが神戸にゴム取引所を設立しました。1951年12月のことです。当時、日本はゴムを輸入、草履などに加工して輸出していましたが、産地のマレーシア、インドネシアで天然ゴムを買い付けてから日本に届くまで数カ月かかったところから、その間の価格変動に対するヘッジのために生まれました。その後、合成ゴムの進出で、天然ゴムのウエートは低下しましたが、自動車工業の発展でタイヤ用の消費が急増、依然、年間70万トン以上の天然ゴムを輸入しており、その価格変動の大きさがユーザー企業を悩ましています。

最近では2006年6月13日に1キログラム324.5円の超高値をつけました。02年の夏場は130円台だったので、2.5倍にもなった勘定です。これは、世界的に自動車産業が好調で中国中心にゴム需要が増加したうえ、ライバルの合成ゴムが原料の石油価格の高騰で、大幅に値上がりしたのが影響しました。その後、超高値の反動で200円台前半まで下がりましたが、それでも高値圏にあることになりました。

この間、タイヤなどゴム製品の価格はあまり上下していません。そこで、ユーザーは上げ過程で買っておけば、相当程度、原料の値上がりをヘッジできたはずですが、逆に下げ過程で売っていれば高い原料を使わずに済みました。

ローリングヘッジに最適

これらのヘッジ手法は一般的に先物取引で使われている手法ですが、ゴムで使いやすい手法としてローリングヘッジというのがあります。天然ゴムは木から採取されるので、木を植えてからゴムが生産されるまで長い期間を要します。品不足になると上昇相場が長く続き、供給過剰になると下げ相場が長く続きます。

そこで、長期間ヘッジすることが必要となり、その意味ではローリングヘッジには最適

ゴムのローリングヘッジの例

①2006年12月限を2枚買建てし、約定価格は1kgあたり250.0円であった。

②後日、その内の1枚をスポット価格と同じ255.0円/kgで手仕舞いし、同時に2007年2月限を1枚買建てる。このときの約定価格は260.0円/kgであった。

③この時点での買いヘッジによる2枚分の調達コストは、505円になる（1枚252.5円）。
 $505円 = (250.0円 \times 2枚) - 255.0円 + 260.0円$

な商品といえるでしょう。なお、ローリングヘッジの手法はアルミニウムのページで述べたものと同じです。他の意味でもゴムはヘッジしやすい商品の代表格といえます。というのも、日本で上場しているゴムがRSS 3号、TSR20、天然ゴム指数と3種類もあるからです。

日本でこのように多様な種類の商品が上場されているのはゴムだけです。そこで、商品間で「クロスヘッジ」などが多用できるというわけです。

クロスヘッジにも向く

例えば、一般には最もなじみが深いゴムはRSS 3号というゴムです。これは東京工業品取引所が設立された時から上場されている商品で、当時は最も消費量が多いゴムでした。しかし、最近では加工品メーカーはゴムシートであるTSR20を多く使っています。ところが、TSR20はなじみが浅く、出来高はあまりありません。

もちろん、TSR20を売買することでヘッジできますが、時に少量の売買で価格がかなり動くことがあり、これが難点となっています。しかし、基本的にはRSS 3号と同じような価

格の動きをするので、そのような時はRSS 3号でゴムシートのヘッジをすることが可能です。いわば、TSR20の代わりにRSS 3号を売買するという手法です。さらに、各種のゴムを使っているユーザーには「天然ゴム指数」を使う手もあります。天然ゴム指数は「シンガポールのRSS 1号、同3号、東京・大阪のRSS 3号、シンガポール、ニューヨーク、ロンドンのTSR 2号、マレーシア、クアラルンプールのSMRCV」という世界6カ所、4種類のゴム価格を指数化したものです。そこで、天然ゴム指数の価格は世界各地のゴムの動きを総合的に表しているともいえ、これを使えば、幅広い分野のゴムの価格変動をヘッジできます。

しかも、天然ゴム指数は「ヘッジする場合に資金効率がよい」「現金決済」「時差と国境を超えたグローバルな取引ができる」といった利点があります。例えば、天然ゴムの先物取引の倍率は倍率が5,000倍と1万倍ですが、天然ゴム指数が2万倍なので、その分、少ない資金でヘッジできるという寸法です。

多様なヘッジを選択できるゴムはその分、大変、利便性が高いということもできるでしょう。